



新帝国の創生 (The Making of New Empire)

チェチェンという国をご存じだろうか？

・ 字幕

スターリンの強制移住、強制収容所の時代に、自らの尊厳を守り抜いた唯一の民族がチェチェン人であったとソルジェニーツィンと記したとき貴方は、その名を脳裏に刻まれたのではなかろうか？

スターリンの死後、生き残ってチェチェンに戻った者たちは、彼らの父祖たちよりもさらに激しいロシア人の憎悪に晒された。

流刑の地で生まれた世代の者たちは、1991年の独立への戦いの先駆者となった。

1994年、ロシアは彼らに対し戦争を宣言し、2年間に80,000人以上が死んだ。ロシア側に言わせると、それは悪名高いチェチェン・マフィアの匪賊に対する戦いであった。

しかし、チェチェン側に言わせれば、「匪賊」とは全く異なった物語が展開してくる。

このフィルムは、そのような「匪賊」の一人と、彼らの国についての物語である。

ラヴァ・フィルム 配給・販売提供
ジュラ・フィルム NPS 共同製作

ヨス・デ・プッター作品 記録映画

新帝国の創生

・ チェチェン ゲルゲデン チェチェン人の男性

我々のじいさんたちは、チェチェンの騎士であり、戦士であるジギートについて、こんなことを言っていた。

ジギートというのは良い男たちだ。腕っ節が強く、賢くて、頼りになる連中だ。こうしたジギートの多くは、普通は自分の一族だけを守る存在だ。それだけが

彼らの任務なんだから。
しかし、自分の村を守るのが役目のジギートもいる。彼らは村を守ってくれる。
さらに、ごく少数、国全体、国民全体を守ってくれるジギートもいるんだと。

ホジーフメード・ヌハーエフは、そういうジギートの一人だと俺は思っている。

・ チェチエン、1998年 ベデノ溪谷への道

パパフを被った二人の老人

われわれの父親たちはパパフを被ってきたもんだ。彼らの父親も被っていた。
最近の若いものは、帽子を被りたがらないが、われわれは父祖が続けてきた
伝統を学ばせようと思っている。過去を知り、理解させたいんだ。

わしの帽子はまた別の形をしてる。色々な形の帽子があるってものだよ。
わしの祖父にあたるシェイク・マンズールは、戦闘の際、この帽子を被ってた。
彼がどんな服を着ていたのか君にも解るように、わしはこの帽子を被ったんだ。
およそ250年前の冬のことだった。そのころの戦争では、今の戦争と違って、
鉄砲は撃たず、土塊を投げて戦ったんだ。相手の兵隊はライフル銃をもってたが、
マンズールには必要がなかった。彼の投げる土塊は15kmも飛んだんだ。
銃無しでも戦えたってことだよ、彼は。

・ ベデノ溪谷 ヤルホイ・タイプの大集会で

アッラーの御名のもと、彼と予言者によりお幸せを授からせますよう。

素晴らしいことをなさいましたね。

彼を抱きしめさせて！ ご健康如何ですか？

おお、こんにちわ。

これは、アスランバークのとこの娘ですよ。

これ、皆さんで分けて下さい。

いやいや、そんなお返しします。でなかったら2人に分けて下さい。

差し上げたのは、神がお望みになられたからです。ご心配なく。

さあ、お食べ。われわれが食べてきたものは失われた。でもこれは美味しいよ。

元気かね？ ええ、とても。

私って誰だかわかりますか？

ちょっと待って、今に思い出すからね。どう元気にやってるかい？

神様が災いから貴方をお守り下さいますように！

この男が、これを1000部印刷させてくれたんだ！

彼は、このモスクの建設費も負担してくれた。

彼に神様のご祝福があらんことを！アーミン。

ホジーフメードは自分の仲間たちを連れてきてくれた。神様も彼らの善行に、ご満足であられよう。

これは、コーランの一節で、そんな長いものではない。

慈悲深きアッラーの御名において。

彼は神の御心に従って、貯めた富を、皆に分け与え、ロシアでも、他のいずれかにおいて、必要とするとき、必要な者に与え続けてきた。

その過程で彼の富は、800倍にも増えた。慈善に捧げた雌鳥の数も800羽。不信心な者には、雌鳥を与えるわけにはいかないと言った。

その彼に対して神様の祝福が、ありますように。わしは、彼の眼をじっと見つめねばならない。貴方が如何なる人物か、よく知るためにも。

・ イスタンブール

マンスール・ヤキムチュク、ヌハーエフの渉外担当助手

ロンドンにファックスを送って交渉を次の段階に進めます。それでは、宜しくお願いします。ヌハーエフ閣下からも、宜しくとのこと。さようなら。

彼は、ロンドンのポールからファックスを受け取ったと言っています。彼らは、この懸案についてスポンサー役を引き受けても良いと言っています。

彼らは、我々がトランス・モンタナに送った契約書の案文コピーを受け取っています。それで、私が具体的な財務計画を立てるよう要求してきました。君のやらかした、一番の失敗は、いったい何だかわかっているのかね？

エッ？ 失敗、君のやった最大の失敗って?? 何なんです、それって？

そうだ、君は大失敗をやらかしたんだぞ！

ごめん、さっぱりわからん。大失敗なんて。説明して下さいよ。

言ってやろうかい？

お願いします。

君の大失敗はね。僕をチェスゲームに誘ったことだよ。

うへ、まいったね。

モスクワに出たのは1974年のことだ。モスクワ大学の法学部に入った。

そこで私はソビエト社会の現実に目を開いた。

私は自分の意識をすっかり変えさせられ反逆者となったのだ。

当時既に私はこの体制—共産主義国家マフィア体制と戦うには、

相応の体制を組織しなければならないと考えた。

直ぐに金が必要になった。チームを作るためにモスクワにチェチェン人を

呼び集めなくてはならなくなったから。

そういう風に始まったのだ。

マスコミが、モスクワで始めた我われの活動をチェチェンの民族マフィアと呼び始めた。

まあ最初こそ、オプシーナすなわち共同体と呼んでいたが、直ぐにマフィアと言い換え、

全世界に我々は残酷な獣だ、オオカミだ、絶対に殲滅しなくてはならない代物だと報道しだした。

これがロシアに、いわゆる「チェチェン・マフィア」なるものが「登場」した実態だ。

・ 大パーティーの会場

まあ綺麗にまとまったと思います。

彼は、もう3回も歌っています。

アドナンが言うには、明日、もうひと押しするそうです。エリザベス・テラーとの出会いのセッティングですが。

・ エリザベス・テラー

ご列席の皆さま。皆さまがここにおられるのは、皆さまが最も選りすぐられた輝かしい

方々だからです。皆さまは、東西が出会う象徴的なこのイスタンブールという町で、

歴史的な出会いの場に集わられておられるのです。

・ ダゲスタン/チェチェン国境検問所

これ、そっちで持ってね。

今、二つの国境検問所を通過する。

最初が、ロシアのダゲスタンの検問所だ。

次が、チェチェンの検問所だ。

さあ、我が国に入るぞ。アッラーは偉大なり。

うん、これはロシア人だ。兵隊も警官もロシア人だ。

あっちに見えるのは、チェチェンの仲間たちだ。あの老人は、わざわざ出迎えに出てきてくれたんだ。若者の方は、アルサーノフ(副大統領)配下のボディガードだよ。

神様の平安を あなたに！

- ・ グロースヌイ
- ・ ヌハーエフ邸(ゲルデゲン村)

さあ、中に入ろうか？

皆さん、いらっしゃいませ。どうぞ中へ。

未だ、全然片づいていないんだ。本はまだ届かないし。

でも、ジョハールの写真はあるよ。若い頃の初代大統領、ジョハール・ドゥダーエフの肖像写真だ。

アッラの若い頃の写真もある。ジョハールのかみさんのアッラだ。

この机に座るってことめったにない。なにしろ旅に明け暮れているから、家に落ち着く暇がないんだ。

家に戻るとね。自分の考える将来のチェチェン国家の基本構想をまとめて見ようという気になるんだ。

もうずっと前から、頭の中にはあるんだけど、それを書き出さなくてはと思っている。ところが、それがなかなか難しいんだ。

俺の兄弟のポートレート写真なんだが。俺たちお互い似てると思わない？

- ・ ヌハーエフの回想

初めから、そんなに沢山の仲間がモスクワにいたわけではない。10人くらいで始まったんだ。

だから、初めは、他のグループとの全面抗争を避けた。それで、自分自身が、相手のリーダーを1対1で対決して、一気に倒すことを心がけた。

倒したら直ぐに、のこされた連中をこちら側に吸収するようにした。

こうやって次第に勢力を拡大すると、自分の所在をきちんと表に出して、守ってもらう必要のある者は、必ず守ってやると宣言した。

そういう風にやったら、たちまち我々のことは、モスクワ中に知れ渡った。

我々の抗争も、その勝利も知れ渡った。

アタリとか、リュビヤツキー・ギャング団とか言った連中との抗争だ。

一番すごかったのは、バウマン・ギャング団との抗争で、本当に壊滅状態に追い込んだ。

こうしたことで本当に助けを必要とする人びとが我々の周りに集まったんだ。

我々は、彼らの事業のパートナーにもなった。

我々のやり方が、どういうことか判ったと思うけれども、大切なことは、お互いに助け合うってことなんだ。

我々の当初の目的は達成され、それは独立を達成する戦いにおいても大いに役に立った。

・ グローズヌイ市内 中心部で

おっ、何だ？ 遠くの方だね。

さあ、ここで周りを見渡すと、えらく見通しが良いだろう？

今は何も建っていないが、ここに沢山の建物が建ってたんだ。何しろ都心部なんだから。

西側にはチェチェン議会の議事堂があった。左側の方には、今は建物の基礎しか残っていないが、大統領宮殿があったんだ。そこで、初代大統領ジョハール・ドゥダエフが執務していた。

彼は本当に偉大な人物だったと思う。彼の思考というのはね。まあ、こんな風だ。
ある時、彼は反時計回りに回る時計を思いついた。あらゆることに囚われないで自由に思考することが、
とても重要だと言うんだよ。それを示すために、ミヌートウカ広場に反対方向に回る大きな時計塔を建てよう
と言うんだ。そして、バーンと机をたたいて言い放った。

「チェチェン人は、時間だって逆転できると世界に指し示してやろう。」とね。

ロシアがチェチェン戦争を引き起こそうとしていたとき、私はドゥダエフに与えられた任務を果たすべくモスクワに行っていた。

任務というのは、エリツインの側近で警護隊長のコルジャコフと交渉するというものだった。

しかし、ロシア側は戦争開始で固まっていた、会見はできなかった。

ほら、その大統領宮殿は、基礎だけしか残っていない。

戦争が始まってしまって、モスクワにはいられなくなってこっちへ戻ってきた。
大統領宮殿に駆けつけようとした。ここに戻った翌日、1月1日のことだ。
マスハードフの参謀本部も、同じ建物の中にあった。そして、ロシア軍の一部は、向かいの国会議事堂まで進出していた。

この先の空き地が国会議事堂跡だから、200メートルぐらいしか離れてないんだな。

そこで僕は立ちつくしていたんだが、そこが一体どこなのか、良く判らなかつた。
一瞬、これは建物の中に飛び込まないとまずいと判断した。立っていたらあぶないとね。

それで、建物の中に駆け込んだ。それは良かったんだが、拍子で足を挫いてしまった。持っていた銃を取り落として、それを拾おうとしたとき、むちゃくちゃな銃撃を浴びせられた。

驚いたことに、それが一発も当たらなかったんだ。それで、叫んだんだよ。ここは危ないから、立ち去ろうって。ここは、ともう一度言いかけたところで、こんどは本当に被弾した。

・ 古老

この戦争は416年前に始まった。その前にもチンギス・ハーンや、ティムールもやってきた。

しかし、今の戦争の方が厳しい戦いとなった。これまでの4回の戦いでも、我々は降伏するという事は無かった。チンギス・ハーンにも、ティムールにも、ポチョムキン公にも、ボゴティロフとの戦いにもね。どの戦いにも、我々チェチェン人は耐え抜いたんだ。ジクルの踊りと神様のご加護によって。

ソビエト政権は、わしをジクルを踊ったかどで2度も投獄しよった。このことを自分から喋ると言うことは、これまで無かったが。ジクルのおかげで極東のマガダンの収容所にも、北ロシアのムルマンスクの収容所にも送られた。シベリアのオムスクや、トムスクにも送られた。2回服役させられたんだ。だけれども、ジクルを諦めて踊らなくなるということは無かった。

シェイク・マンスールも、270年前にジクルを踊ったと言うことで投獄された。

もしものを喰わなかったら、胃袋は空っぽになる。それと似て、ジクルを踊らないと、我々はまるで腹ぺこのようになり、弱々しくなるんだ。

ちょっと、この杖を見ておくれ。こうやって、杖を持ってヨー・ヨーと叫んで、高く掲げるんだ。

おお、神様よ。我らを守り給え。

この杖を布で磨くと言うことは絶対しない。でも夜も昼もこの杖を手放すことはないんだ。

これは、神聖な杖なんだ。この杖でわしが、飛行機を撃ち落としたりと思ひこんだ飛行士を捕虜にしたこともあるんだよ。

・ 墓地

ここに、我が父祖たちが眠っているんだ。チェチェン人は皆、自分たちの一族の墓地を持っている。

これは、僕のおじいさんの兄弟の墓だ。彼はね、誰彼かまわずあだ名を付ける名人だった。

僕につけたのは、それを自分でも誇りに思っているんだが、ボルズーすなわちオオカミっていうあだ名だ。ところがね、僕を叱るときには、お前は「尻尾の千切れたオオカミ」だなんて酷いこと言うんだぜ、参ったよ。

年寄りというものは、多くが哲学者みたいなもんだよな。

ここに葬られているのは、私のばあちゃんのメミだ。大変に美しい女性だったので色々な逸話が残っている。

そのばあちゃんが、僕を溺愛していてね。我々一族の守護聖人にアウダというのがいるんだが、そのアウダの話をよくしてくれた。

この近くに建設する新しい町は、それでアウダと名付ける予定なんだ。

そのアウダについては、言い伝えがあって、アウダが、我が一族から世の中の困難を救う人間が必ず現れると予言していたと言うんだよ。ばあちゃんは、その人物が、この僕なんだと言うんだ。

ばあちゃん死んでいく、ちょっと前にも、2度もそのことをみんなに言ったんだ。

まあ、他の連中より、僕はばあちゃんに、よく贈り物をしていたから、ばあちゃん気を良くしてたってことも、あるんだと思うんだがね。きっとそれで、そんなこと言ったんだ。

・モスクワ時代の学友が訪ねてきた サイド・ハッサン・アブ=ムスリーモフは、歴史家・外交官となった。

1939年にベリアは、スターリンにこう書き送っている。
ソビエト連邦全体に我々は支配を確立したが、チェチェンだけは抵抗しつづけていると。

その後、われわれはシベリアに追放され、さらにバラバラに各地に分断された。
家族も分断され、生き別れにさせられ、およそ人口の半分以上が殺された。

選択は、生き延びるために服従させられ、奴隷として飢えに苦しめさせられるか、あるいは反徒となって反撃し、ならず者として追い立てられるしかなかった。

またシベリアでも、我々は老人、婦女子を守って戦わねばならなかった。でなければ、誰も生き残ることができなかったであろう。

だからこそ、我々の圧迫者からものを盗る者は、我々の間では英雄だったのだ。
前からずっとそうだった。

・ヌハーエフ邸台所

私たちの母親は強制移住の時、小麦粉を2袋しか持ち出せなかった。
それを分け合って飢えをしのぐしかなかったの。

多くの人が強制移住で死んでいったのよ。

私の父親と母親は生き別れよ。ロシア軍がやって来たとき、母は実家の両親のところに行っていたのよ。

父は長いこと母たちを探し続けたの。それで私たちは、強制移住の地で産まれたの。
私の姉のズライ、兄のラムザン、その後が私で、弟のアミナートとそれから、ホジ=アフメードが。

・ヌハーエフの回想

強制移住から戻ってみると、チェチェン人には難問が立ちはだかっていた。

グローズヌイでも他の町や村でも、自分たちの暮らしていた家には他人が入り込んで勝手に暮らしていたんだ。

ロシア人や、他の民族の連中だ。そして、まずその家が自分の家だと、こちらが証明しなくてはならなかった。誰が主人なのか、思い知らせてやる必要があった。

実に様々なトラブルが発生したんだよ。それを解決するのに我々は多くのことを無意識に、内からの必要に迫られてやって行ったんだ。

それで、中学校の最年長になった頃、グローズヌイのグストフスキー通りという、共産政権のエリートであるロシア人やロシアに魂を売った連中の集中している区域に行くと、その連中は、チェチェンの風習に対して馬鹿にした態度をとるんだ。

それで毎日のように、そこへ行って、片っ端から喧嘩を売って、奴らを叩きのめして、相応の敬意を払うようになるまで、喧嘩を続けたんだ。

・ 別の旧友、ゼリムハン・ヤンダルビーエフ宅を訪ねて

ホジーフメードは、私が大統領職を引き継いだとき、全外交活動を指揮してくれた。

私の文学活動は、私を政治の世界に引き込んでいった。

1970年代、私たち若い文学者は、文学組織「プロメテウス」を組織した。これに対し、共産党やKGBは、警戒心をあらわにして秘密裏に圧迫してきた。

チェチェン人たちは非常に濃密につきあってきた。とくに強制移住先で生まれた者たちはね。

我々は、一緒に意見交換し、しょっちゅう、お互いにたずねあったものだ。

ある時、自分は百科事典や参考書籍の中に興味深い記述を見つけた。

モスクワで勉強を始めた頃の話だけれども、それは、チェチェンにおける駐留ロシア軍部隊の話だった。

北コーカサスには300,000人のロシア軍部隊がいるというものだった。

300,000人とは途方もない数字のように思われた。そして、チェチェン人の学生たちから、私は笑い飛ばされた。

ソ連式の学校で教育されて、すっかり意識を変えさせられた連中が沢山育っていたんだ。

なにしろ、ソ連軍は強大で無敗、比べてチェチェン人はとるに足らない連中だと毎日毎日吹き込まれていたからね。

チェチェン人だけでなくロシア人でない民族は、全て劣った存在だと教え込まれてたんだ。

それで、チェチェン人学生自体にあざ笑われたんだが、そこで、ベッドに寝転がって聞いてたホジーフメードは、こうやって振り返ってね、笑ってる連中に向かってこう言ったんだ。

何で君らは笑っているんだ？ 何が信用できないんだ？ 俺が思うに、数はかえって少なめにされてるとさえ思うんだが。我々の数は誇張され、彼らの数は少なめだ。だが300,000人が何だって言うんだ？ と。

たった一人で、僕の考えを精神的に支えてくれたんだ。唯一の僕の理解者だった。

それで、すっかり仲良くなって、今までずっと、友達づきあいを続けているんだ。

その後、もちろん、色んな事柄について、協力し合ってきた。たとえば、如何にして我々はロシアの支配から自らを解放することができるかとか・・・

でも、全ての始まりは、このエピソードからなんだよ。

私が、ペレストロイカ政策の行き詰まりに、辟易していた頃に、二人が僕のところにやって来た。新しい運動を始めようと言うんだ。ただ、僕自身は、自分たちに何ができるだろうかと、懐疑的だった。

彼は、新聞を発刊できるし、そのための資金は用意すると請け合った。で財務担当ということに。その後、組織防衛の担当も引き受け手もらった。

こうしてホジーフメードは、ワイナフ民主党の保安機構も財政活動を共に指揮していた。ところがまもなく、モスクワで彼は逮捕されてしまった。そして91年の暮れまで獄中にいた。

そう91年の11月までだ。

90年5月半ばから、91年11月までだ。そしてジョハールの尽力で、我々は彼を取り戻した。収容所から戻った彼は我々に合流し、そして今日もこうして卓を囲んでいるというわけだ。

真実は真実だよ。

我々は少数だったかも知れないが、我々はソ連に終止符を打ったんだ。

・ ニュース映像 第一次チェチェン戦争終結

さあ、サインしてしまってくれ。

ヤンダルビーエフはエリツイン大統領の出席のもと、両者の代表の前で、停戦条約に署名した。

ホジーフメードと私はモスクワでの学業を1年ほど、休んだことがあった。

運動のための資金稼ぎをしようと学生アルバイトに貨車の積降ろし作業を引き受けたんだ。今では信じられないようなことだけれども、当時は若かったから、荷役の作業で我が民族の助けができるなんて考えた。

我々の目論見はそうだったが、ロシア語には、ナイーブ-幼稚って言葉があるよな。当時、ホジーフメードは、盛んに商業活動をやってる人びとの中にいた。

彼は僕のように勉強熱心ではなく、そのかわり他のことに熱心だった。

ある時彼は僕のところにやってきて、「なあサイド・ハッサン…」と切り出した。「貨車の荷役ではなく、他のことを考えようや」と言うんだ。

俺は幾人か商業活動を行ってる連中を知ってるんだが、彼らと一仕事しようと思うんだと言うんだ。正直言って、全てについて賛成した訳では無かった。

だが、彼は言ったものだ。「君は始めた仕事を完成させろ。」とね。また、時間をかけないで金を手に入れる必要もあるというんだ。

サイド・ハッサンには、いつも金が足りなかったんだ。貨車の荷役では、たいした金はつくれたいんだ。彼は、この世離れしていたんだよ。

なにしろ図書館にこもりっきりの人間なんだから。読書に没頭し、新しい情報を探し求めていた。ほんとに生き字引とは彼のような人物をいうものだ。それで彼には時間というものの感覚が欠如していた。

貨車の荷役の仕事は、ごく初期の話だが、私も初めは良いかと思ったが、直ぐに真剣な組織活動に必要な金を生み出すには、全く足りないと感じた。

今と比べると全ては、はるかに複雑だった。何しろ全てが非合法だったから。

我々が始めた仕事は、ソ連の法律では、密輸とされる性格のものだった。すなわち、私は密輸に従事することになった。

それは、こう言うやり方だった。共産党の幹部連中がやってたのと同じなんだが、人件費を節約して、いわば貨車1両づつの荷役を、一気に1列車、丸ごと降ろすようなやり方で、金を作っていた。

・ バクー、アゼルバイジャン

アゼルバイジャンの油田地帯は世界最大です。最初の油田開発の大ブームが、丁度100年前に、チェチェンとアゼルバイジャンに訪れました。チェチェンのそしてアゼルバイジャンの油田開発は、ノーベル一族の、そしてロスチャイルド一族の勃興と結びついています。

ロシア革命の始まりで、彼らはチェチェンやアゼルバイジャンを離れましたが、彼らの事業規模は、グロズヌイの鉄道駅を見れば判ると思います。

そして、今また彼らは、ここに戻って来つつあります。現在11の大石油企業がコソーシウムを組んで油井の再開発に取り組んでいます。

大きな問題は、西側に原油を送るパイプラインをどこを経由して通すのかと言うことがあります。ロシアは、チェチェンを経由してノボロシースクに送る案を推していますが、すると、どうしてもチェチェンを手放せないという理由にもなります。

ヌハーエフが創設した「コーカサス共同市場」は、パイプライン建設を含む、全システムを提供してアゼルバイジャンからチェチェン、ロシア、ウクライナ、ポーランドと延ばして行こうというもので、いわば「平和のパイプライン」を建設しようと言うものです。

まあ、ロシアの中には、チェチェンを迂回したパイプライン建設を主張する向きもありますが、これは紛争の継続を考慮してのものだといえるでしょう。

・ ヌハーエフの回想

私の獄中時代は私の記憶に深く刻まれている。

とくに3度目の収監となったコムソモルスク・ナ・アムーレの収容所は酷いものだった。

そこに着くまでも、各地の中継キャンプを転々とさせられた。

ソ連当局の意図ははっきりしていて、収監されている犯罪者を挑発して、私を殺させるか、

大怪我を負わせようと、やっきになっていた。

そのために凶暴な連中をわざわざ用意していた。

おまけに、食べ物と言ったら、家畜すら喰わないような不潔きわまりないものだった。汚れきった車両で運んできた牛も豚の屑骨をごたまぜにした骨から出しをとった、醜悪きわまりないスープで、とてもムスリムには、喰えた代物ではなかった。

そのスープを、他のゴミ屑と一緒に人間であることをやめたような連中に喰わせていた。そして自らその名もズバリ鬼畜収容所と呼んでいた。

栄養不足で人間が、痩せて腹だけふくらみ、理性は失われてしまう。これらの連中がうろつき回っている中で暮らしたぞっとするような思い出が、人生で一番悲惨な思い出だ。

そこでは、少しでも若くて力のある奴が、情け容赦もなく年老いた弱い者を打ち倒して奪い取るような、野獣の法則が支配していた。人間の尊厳は全く無視されて、あるのは剥き出しの欲望だけだった。

もう一つの思いでは、脱獄だ。最も古典的ともいえる脱獄法であった。全ては外にいる仲間たちが手配してくれた。だから、自分にとっては楽なものだった。

ジョハール・ドゥダーエフを先頭に、ヤンダルビーエフもサイド・ハッサンも、昔からの仲間たちが、力を合わせてやってくれたんだ。彼らは既に我が国の権力を掌握していたから。

それで、様々な書類を作成し、僕の収監されている収容所に大車列がやって来た。そして、書類を提示して、僕の引き渡しを要求したんだ。

・ 構想を練るヌハーエフ

イスラム。ムスリムの心は緑色で表現される。

民族は赤で一血で打ち立てられ、血で結ばれたものだから。

第3の力は、権力を表す白。この色は、清潔さの色だ。

三つ三角形—三角は山の象徴でもある。それは三つの力を表している。

チェチェン語のラムは山だ。力について語るとき、我々は「山のように」と表現する。

三つの三角が重なったとき九曜星となる。チェチェン語の九つはイスだ。

だからイス・ラムとなるのだ。

ここでも、三つの力が重なっている。ということは、三つの山、三つのピラミッドが三つの力を象徴しているんだ。

この三つの三角形が重なって、九芒星となる。この九芒星というのは、九つに重なった力、すなわち九重の山々、九重を表すイスと山を表すラムすなわちイスラムを表すことになるわけだ。
チェチェン語の9はイス、チェチェン語の山はラムだから。

またイスラムの教えでは九つは完全を表す数字でもあるんだ。数字が9から、また0に戻って繰り返されるから。0から9というのは一つの完成された数列なんだ。

ラムは力、チェチェン語では山の力を意味し、コーランでは、神は地上に山をこの世に均衡をもたらすために創造されたとある。この世には釣り合いというものが必要だからだ。

私は、こうした法則は、我々民衆の間でも働いているべきだと思うんだ。

・ 新しい町、アウダの建設現場

神の平安をあなたに。お元気ですか？

進行状況はどうかね？

ええ、今壁を積み始めたところです。

我々が立っている、まさにこの地点に、新しい町が建設されるんだ。
付近には三つの村がある。最初の一つ目は、北側のツォツイン・ユルト村で、二つ目の東側には、ゲルダガン村があり、三つ目は、南側のアフトウル村だ。

なぜここに町を作ろうと言うのかと言うと、ここが三つの村から等距離にあってしかも、その地所の持ち主は、自分だと言うこともある。

あいつは、思いがけないめっけものだよ。
どこの出身なんだい？
ノイレだそうだ。

我々は、誰か石塔を創れる奴はいないかと、そこら中を探し回っていたんだ。
そうしたら、ウワイスが、できる人を知ってるって言い出した。

そこで俺は、そいつの村に出かけていった。その男は優秀な石塔技術者だった。

九つの部族集団(タイプ)は、ここに示されるんだ。煉瓦造りでね、非常に美しいものになるだろう。

きっと美しいに違いない。
九つのアーチが作られる。

中央のアーチが一つ。そして両側に、だんだん小さなのが次々とつづくんだ。
装飾的だが意味が込められている。

正面にはあんたの言う三角形の「イスラム」を置く。そこがその中央部だ。

それで、どんな形になっていくんだい？ 星形かい？

そう、星形だよ。九芒星だ。

各先端には、九つの印が置かれるんだ。イスラムを示す九芒星。そして九つの部族を表す星形が配置される。

君が考えているのは、この絵のようなものなのかい？

だとしたら、アーチはないんだよ。これは山を表さないかね。しかもそれが九回繰り返されないと。それは、部族たちの数でもある。まあ、どうやったらいいかは、君が最善の方法を知ってると思うが。

これは、確かに真上から見たら一目瞭然だが。

中央には2-3の礎石が置かれる。

そこから上に向かって建設が始まるんだ。

我々は九つの部族で構成される。そこで最も重要なのは、何だと思うかい？
もし、これらの力が合わさった気にだが？

それは、君らそれぞれの家々が安全だと言うことなんだ。
君らの村、君らの村民、君らの家族が安全だと言うことだと思う。

これが一番大切なことだと思う。

全くだね。

これが確保できれば、最初の地上の楽園の第一歩が建設できるだろう。
地上の楽園を建設するんだ。自然災害にも、敵からも、飢えや寒さからも安全な生活を築くんだ。
安全は非常に重要だぞ、何しろ我々の数は、決して多くはないんだから。

しかし、我々が、イスラムの教えである「ウンマ」と、チェチェン人である誇りを敬えば、
我々は力に不足することはない。

そうすれば、我々は我が隣人たち、家族そして民族によって守られるだろう。

だからこそ、民族の象徴が中心に置かれなくてはならないんだ。

ここで、みんながどういうことか見ることができる。
我が民族こそ我が力の源泉だ。

これが、中央に置かれなければならない理由だよ。

もし我々がこの力を打ち立てられるなら、それはイスラムの信仰に基づいていなければならない。

神は、人びとにその形と仕組みを与えられた。ひとびとはまた、形と仕組みを持っている。

そして、人びとは誰を選ぶのか？

神は全ての人を同じには創られなかった。人びとはそれぞれ異なっている。

我々はその内側から、みんなそれぞれ異なった存在なんだ。

もし、皆さんが自分の家族を見回し、自分の部族の構成員を見回したら、いつもある一つのことに気がつくだろう。

誰が、他人のことを気遣っているのか？ 誰が彼らのことを心配し、彼らの世話をしようとしているのか？

そういう人びとを村の指導者に選ばなくては行けない。これが状況だよ。

民族について、私が何か言えというのなら、私はここに民族を見いだしたい。

だってここに全てが描き出されているではないか？

・ イスタンブール

この通り、シルクロード・ルートというのは、ユーラシア大陸をヨーロッパ、コーカサス、中央アジアを経て中国に入り終点の上海に至ります。

このユーラシア回廊は、ロシアより南の地域に引かれます。

これとは別に北から南にイランに抜けるルートも考えられます。

ここがコーカサスなんですが、その心臓部にチェチェンが位置しています。

ここでヌハーエフ氏は、チェチェンを経由した南北ルートも提唱し、トビリシへ抜け...
あるいはエレバンからイランを経由して湾岸へ抜けるルートなどの開発を提唱しています。

シェブロンなどがやっている、テンギス油田の原油も一緒に運べますね。

まあロシアは300年にわたって軍事的にペルシャ湾に出ることを目指してきた訳ですが、
われわれ「コーカサス共通市場」は、平和的に南北の利益が統合されることを目指したいのです。

・ チェチェン共和国大統領とヌハーエフがロンドンに到着

誰にどう交渉すれば良いんですか？ 今、大統領ら一行10名が着陸しました。
大統領とヌハーエフ氏、それに大統領夫人とご子息、警護隊長、...TVクルーなどです。

- ・ ロンドン証券取引所
- ・ コーカサス共通市場ロンドン事務所

失礼します。

ここからは、ロンドンの金融街の心臓部が見渡せます。まあ全世界の金融の中心と言っても良いでしょう。

素晴らしいね。

この最上階に行けば、ロンドン市の全体が見渡せます。この建物は最も重要な金融機関が集中しています。

38階もあるのかい？ はい、そうです。

38階からの眺めは本当に素晴らしいですよ。

街全体が見渡せます。

一言、お言葉を下さい。これは、始まりですから。

スタートが切れたと言うことは、これが重要なのです。後がどうなるか、これは神の思し召しです。良い成果が上がることを期待しています。

全ての出版社が戦慄してますよ。実際に全世界を動かそうとする人物を前にして。

何をそんなに心配するんですか？

どうして良いか判らないからですよ。

始まりの 老夫婦が山に行き、オオカミに出会うというのはなかなか良いです。一気に10万部ぐらいは売れるでしょう。

おはよう。

今日の「タイムズ」紙と「サンデー・タイムズ」紙です。

事務所の責任者と大統領 マイランの細君と こっちはサッチャー夫人とだ。

見出しは、「辺境の王を迎えて」とある...

記事の結びは、古い伝説に曰く、イングランドとチェチニアは何時の日か、共通の王を迎える日が来るであろうと。

一体どちらの王を迎えるんだ？ イングランドのか？ それともチェチニアのかい？

現在立っているスケジュールですと、来週半ばまではロンドンにいて、それからパリとブラッセルにむかいます。おして、ローマ法王との会見の準備に入ります。バチカンのヨハネ・パウロ2世法王です。その後イスラエルですね？

この青いドレスを着た女性がこの国を治めている。彼女は大変な金持ちなんだよ。

この国の王様だったんだ。我々は、このホテルに泊ってたんだよ。とっても綺麗なところだった。彼女いくつぐらいだと思う？

あんたより、歳行っていそうだね。

ああ、そこにも彼女がいる。

それじゃあ、私も髪を切って、染めようかね？

・ ベデノ

これはどういうことなのかい？

そこに依頼人の署名があるでしょう。

彼は我々の地域のイマームなんだが。

シャイトイのモスクが破壊されたままなので、君のような人物なら支援を仰げるだろうと。

モスクが破損しているんで...

神様への寄進と言うことで。

それでは、私はおいとまして谷を下っていくことにしよう。

神のご祝福のあらんことを。

神はご満足であられるだろう。

助けが要るのかい？

いいや、それには及ばないよ。

遠慮なくて良いのに。

・ 古老たち

オオカミがイヌに聞いたとよ。何で鎖でつながれてるんだ？って イヌが答えて曰く、これは、こういう風に決まってるものなんだよ。

ふーん。俺は自由な方がいいやと言うと、オオカミは歩き去った。

将来に困難は待ちかまえているだろうが、いまのわれわれは、自分たちの暮らしに大いに満足している。神を称えよう。

我々はめんどりとして生きながらえるよりも、おんどりとして死ぬ方がましだと思っているんだ。

終わり

訳：岡田一男（映像作家）

2003年11月14日 2009年5月18日一部改稿